

ポイント

1 古文の特色

(1) 歴史的仮名遣いが使われている。

↓歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すルールを覚える。

① 語頭以外のハ行……は ひ ふ へ ほ

←
ワ行に直す……わ い う え お

例
あはれ ← あわれ

② ゐ・ゑ・を

←
い え お
に直す

例
ゐる ← いる
←(居る)

例
こゑ ← 声を
←(青)
あを
あお

③ ぢ・づ

←
じ ず
に直す

例
ふぢ ← 藤
ふじ

例
あづま ← 東
あずま

④ ア段の音+う(ふ)

←
オ段の音+う
に直す

例
やうやう ← ようよう

例
まうで来たりしは ←
もうで来たりしは

⑤ イ段の音+う(ふ)

←
ゆ う
に直す

例
きふ ← 急
きゆう

例
うつくしうて ←
うつくしゆうて

⑥ エ段の音+う(ふ)

←
イ段の音+う
に直す

例
てふ ← 蝶
ちよう

例
行きませう ←
行きませう

(2) 古語が使われている。

※ 現代語と同じだが意味の異なる言葉に注意。

ありがたし || めったにない あはれ || 趣深い
うつくし || かわいらしい あした || 早朝・翌朝

※ 現代では使われなくなった言葉もある。

つきづきし || 似つかわしい いと || 全く
あらまほし || 望ましい ゆゆし || 立派だ

(3) 係り結びの法則が使われている。

↓文の途中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」という係りの助詞があるときは、文末の結びの言葉の活用形が終止形ではなくなる。

ぞ なむ や か こそ
↓連体形
例 扇は空へ上がりけり。
← 係り結び
扇は空へぞ上がりける。

こそ ↓已然形
例 不思議にさうらふ。
← 係り結び
不思議にこそさうらへ。

(口語の仮定形にあたる)

2 会話文の見つけ方

↓ 「と」「とて」を見つければ……会話文の終わった直後には、「と」「とて」が来ることが多い。

例 絵かき、「心得たり」とて 焼筆をあつる。

↓ 「いはく」「言ふやう」を見つければ……会話文が始まる直前に置かれることが多い。

例 人民相議して いはく、「我ら……」

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとするなり。その年のしはすの二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。そのよし、いささかに物にかきつく。ある人、^④ 県の四とせ五とせ果てて、^⑤ 例のこともみなしをへて、^⑥ 解由など取りて、住む館よりいでて、舟に乗るべき所へ渡る。かれこれ、^⑦ 年ごろよくくらべつる人々なむ、別れがたく思ひて、日しきりにぬ、送りす。^⑧ ののしるうちに夜ふけぬ。二十二日に和泉国までと、平らかに願立つ。藤原のときさね、船路なれど、馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれ合へり。

(紀貫之「土佐日記」より)

(注) 戌の時：午後八時頃。

県：任命された地方での行政勤務。国守。

例のこと：(国守交替のときの) 慣例になっている事務の引き継ぎ。

解由：解由状。新任者が前任者の任務が完了したことを証明した公文書。

和泉国：現在の大阪府南部。 馬のはなむけす：送別の宴を開く。

上中下：身分の高さに関係なく、その場にいた者は皆。

あざれ合へり：ふざけ合った。

□(1) 線①「してみむ」とは、「してみよう」ということですが、何をし

てみようというのですか。文章中から二字で書き抜きなさい。

□

□(2) 線②「しはす」について、次の各問いに答えなさい。

(a) 現代仮名遣いに直しなさい。

□

(b) 何月のことですか。漢数字で答えなさい。

□ 月

□(3) 線③「二十日あまり一日の日」とは何日のことですか。漢数字で答えなさい。

□

□(4) 線④「四とせ五とせ」を意味がわかるように、漢字を使って現代語訳しなさい。

□

□(5) 線⑤「みなしをへて」を意味の上から二つに区切る場合、どこで切れますか。二つに分けて書きなさい。

□

□(6) 線⑥「知る知らぬ」とありますが、この部分にはどんな言葉が省略されていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人 イ 舟 ウ 手紙
エ 館 オ 解由

□(7) 線⑦「年ごろ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 近ごろ イ およその年齢
ウ 何年もの間 エ 昔

□(8) 線⑧「ののしる」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 親しく語り合う イ 大騒ぎをする
ウ 悪口を言う エ ふざけ合う

□(9) 作者が発する当日のできごとを書いている部分はどこからどこまでですか。その部分の初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

□

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 出御待つほど、人々集まりゐて、さまざま物語言ひかはずに、少将内侍、

御つぼの楓の木を見出して、「この楓に初紅葉のしたりしこそ、失せにけれ。」

と言ひたりけるを、頭中将聞きて、「いづれの方にか候ひけむ。」とて、梢を見

上げれば、人々もみな目をつけて見けるに、蔵人永継とりもあへず、

枝にこそ候ひけぬ。」と申したりけるを、右中将実忠、この言を感じて、この

ころは、これほどの事も、心とくうち出づる人はかたきにてあるに、優に候

ふものかな。とて、うちうめきたるに、人々みな入興して、満座感嘆しけり。ま

ことにとりもあへず言ひ出づるも、また聞きとがむるも、いと優にぞ侍りけ

る。古今の歌に、

* 同じ枝を分きて木の葉色づくは西こそ秋の初めなりけれ

と侍るを、思はえて言へりけるなるべし。

(注) 出御：天皇のおでまし。 御つぼ：お庭。

初紅葉のしたりし：今年まっ先に紅葉した(葉)が。

とりもあへず：その場ですぐに。

心とくうち出づる人：機転をさかせてさつと言い出す人。

入興して：興に入つて。

古今の歌：「古今和歌集」のこと。

同じ枝を分きて：同じ木の枝であるのに西方の枝だけ。

西こそ秋の：陰陽道で、四季を東西南北にあてはめることによる。西は秋にあたる。

思はえて：思いついて。

□(1) この文章(和歌を含む)に、「係り結び」は何か所で使われていますか。

漢数字で答えなさい。

か所

□(2) 線①「言ひかはずに」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

□(3) 線②「とて」を現代語に訳しなさい。

□(4) にあてはまる言葉を文章中から漢字一字で書き抜きなさい。

□(5) 線③「右中将実忠」の言った言葉は、どこからどこまでですか。初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

□(6) 線④「かたき」の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア かた苦しい
- イ 見当はずれである
- ウ まれである
- エ がんこである

□(7) 線⑤の動作主をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

- ア 少将内侍
- イ 頭中将
- ウ 蔵人永継
- エ 右中将実忠
- オ 人々
- カ 筆者

□(8) 線⑥「満座感嘆しけり」とありますが、なぜみんな感嘆したのですか。その理由を簡単に説明しなさい。

□(9) 線⑦「いと」を現代語に訳しなさい。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

夕方、殿にまうで給ひて、暮れ行くほどの空、いたう霞みこめて、花のいとおもしろく散り乱るる夕ばえを、御簾巻き上げてながめ出で給へる御容貌、言はむかたなく光みちて、花のほひも、無下にけおさるる心地ぞ。
琵琶を黄鐘調にしらべて、いとのとやかに、をかしく弾き給ふ御手つきなど、「隈なき女も、かくはえあらじ」と見ゆ。この方の人々召し出でて、さまざまうち合せつつ遊び給ふ。
(堤中納言物語より)

(注) 殿…この作品の主人公である中将の、父の屋敷。 御簾…すだれ。

言はむかたなく…言いようもなく。 黄鐘調…琵琶の調べの一つ。

隈なき女…万事に通じている女。 この方…音楽の方面。

□(1) — 線①「いたう霞みこめて」、②「おもしろく散り乱るる」とありますが、この部分の主語をそれぞれ文章中から一字で書き抜きなさい。

①

②

□(2) — 線③「ぞ」とありますが、□には、「ぞ」に呼応して何という言葉が入りますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア する(連体形) イ す(終止形)
- ウ すれ(已然形) エ し(連用形)
-

□(3) — 線④「かくはえあらじ」とありますが、この部分の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア これほど趣深い演奏をしてはいけない。
- イ これほど面白おかしい演奏はできないだろう。
- ウ これほどすばらしい演奏をする人は他に全くない。
- エ これほど趣深く演奏することはできないだろう。
-

④ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

炎旱の時、定海僧正、勅を奉じて折雨せられけるに、一兩日の間、夕立注ぐが如く二時ばかりしたりければ、叡感あり。勸賞おほせらるる処、僧正申していはく、これ、海の雨にあらす。よりに賞せらるる能はず。海の雨は、明日など乾の方より事起こりて降るべきなり。もし然らばその時に賞せらるべしと。

翌日果たして乾の方よりくもり始めて、甘雨降り、三日休まず。よりに、勸賞をおほせらる、と云々。

(注) 炎旱…ひどい日照り。 定海僧正…平安時代末期の僧。

勅を奉じて…帝の命令を受けて。 折雨…雨乞い。 二時ばかり…四時間ほど。

叡感…帝の感心。 勸賞…帝のお褒めの言葉。 乾…北西。

□(1) ~~~線A・Bの言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

A

B

□(2) 文章中から「定海僧正」の会話の部分を探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

~~~~~

□(3) — 線「よりに、勸賞をおほせらる」とありますが、帝が勸賞した理由として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 定海の雨乞いのおかげで、乾の方角から夕立のような雨が降ったから。
- イ 定海が言ったとおり、日に乾の方角からくもり始めて雨が降ったから。
- ウ 定海が夕立は自分の雨乞いの効果ではないと、帝に正直に話したから。
- エ 定海の雨乞いによって降った夕立が三日間もやまずに降り続いたから。
- オ 定海が帝の命令を忠実に守って恵みの雨を二度も降らせたから。
-

5 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 奉公人のはてとおぼしきが宿を借り、よもやまのことを語り尽くしけり。亭主ほめて、いかさまただの人とは見え候はず、もはややすみたまへ。② 夜具をまゐらせんや。と言ふ。いやいかほどの野陣山陣をしつけ、少々寒きことをばしらず、③ 無用。と言ふて、着のまま寝ねけるが、夜ふくるにしたがひ、ひたもの寒し。時に亭主亭主これのねずみには、足を洗はせたか。と問ふ。いや、さやうのことはなし。と答ふ。「それならば、むしろを二、二枚着せられよ、ねずみが着た物を踏まば、むさからうずに。」  
(安楽庵策伝「醒睡笑」より)

(注) はて…なれの果て。 よもやま…いろいろな。 いかさま…ほんとうに。

ただの人…ふつうの人。 もはや…もう。 ひたもの…非常に。

むさからうずに…不潔だろうから。

□(1) 〰〰〰線①・②を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(a) [ ] [ ] (b) [ ] [ ]

□(2) 文章中から「亭主」の会話の部分を二か所探し、出てくる順に、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 〰 | 〰 | 〰 | 〰 |
| 〰 | 〰 | 〰 | 〰 |
| 〰 | 〰 | 〰 | 〰 |
| 〰 | 〰 | 〰 | 〰 |
| 〰 | 〰 | 〰 | 〰 |

□(3) 線①「奉公人のはてとおぼしきが」について、次の各問いに答えなさい。

(a) この部分を、省略されている言葉を補って現代語訳しなさい。  
 [ ] [ ]

(b) この人の奉公先はどんなところだったと考えられますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 農家
- イ 商家
- ウ 武家
- エ 宮家

[ ] [ ]

□(4) 線②「夜具をまゐらせんや」の現代語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 寝具はお使いになりませんね。
- イ 寝具はお持ちでいらつしやいますか。
- ウ 寝具をお持ちいたしませんか。
- エ 寝具を取りに来て下さいませんか。

□(5) 線③「無用」とありますが、何が「無用」のですか。文章中から書き抜きなさい。

[ ] [ ]

□(6) 線④「このねずみには、足を洗はせたか」について、次の各問いに答えなさい。

(a) 「このねずみ」とはどういう意味ですか。具体的に書きなさい。

[ ] [ ]

(b) このようにたずねた本当の理由を説明しなさい。

[ ] [ ]

□(7) この話の面白さはどんな点にありますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 主人公が、自分のうそが亭主にはばれているの知らない点。
- イ 主人公の話が亭主に無視されてしまう点。
- ウ 亭主が主人公の考えを誤解している点。
- エ 主人公が自慢をした手前、変な言い訳をしなければならなくなった点。

[ ] [ ]

6 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中頃、市正時光というふ笙吹きありけり。茂光といふ筆築師と囲碁を打ちて、同じ声に裏頭楽を唱歌にしけるが、面白く覚える程に、内よりとみの事にて



時光を召しけり。

御使ひいたりて、この由よしをいふに、いかにも耳にも聞き入れずただもろとも①にゆるぎあひて、ともかくも申さざりければ、御使ひ、かへりまゐりて、この由よしをありのままにぞ申す。いかなる御みいませかあらんと思ふほどに、いとあはれなる者どもかな。さほどに楽にめでて、何事も忘るばかり思ふらんこそ、いと\*。王位は口惜しきものなりけり。行きてもえ聞かぬ事とて涙ぐみ給へりければ、②思いの外になむありける。

(鴨長明「発心集」より)

(注) 笙・箏・篳篥：雅楽に用いる楽器。 同じ声に：声を合わせて。 裏頭楽：雅楽の題名。

内：帝。 ゆるぎあひて：体をゆらして歌うばかりで。 いませめ：処罰。

□(1) \* にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア やんごとなし イ やんごとなく

ウ やんごとなき エ やんごとなけれ

□(2) — 線①について、帝に何と言ったのですか。次の文の□にあてはまる言葉を、「音楽」という言葉を用いて二十字以内で書きなさい。

・「時光は茂光と□でした。」と言った。

□(3) — 線②「思ひの外になむありける」について、次の各問いに答えなさい。

(a) このように思ったのは誰ですか。文章中から書き抜きなさい。

(b) (a)の人物はそれまではどのように思っていましたか。文章中から十五字以内で書き抜きなさい。

|                                                    |                                                    |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">□(3)</p> <p>(a)</p> | <p style="text-align: center;">□(3)</p> <p>(b)</p> |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|

7 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

\* 九条の大相国くさうこく浅位の時、なにとなく后町の井を、立ちよりにて底をのぞき給ひけるほどに、①丞相じやうさうの相見あひまえける。うれしくおぼして帰り給ひて、鏡たまたをとりて見給ひければ、その相なし。いかなる事にかとおぼつかなくて、また大内に参りて、かの井をのぞき給ふに、さきのごとくこの相見えけり。その後しばらく②に案じ給ふに、鏡にて近く見るにはその相なし。□にはその相あり。この事、大臣おとどにならんずる事遠かるべし。つひにはむなしからじ、と思ひ給ひけり。③はたしてはるかに程へてなり給ひにけり。この大臣は、ゆゆしき相人にておはしましたけり。

(注) 九条の大相国：藤原伊通。 浅位の時：位の低かった時。

(橘成季「古今著聞集」より)

后町の井：内裏にある井戸。 丞相の相：大臣の面相。 大内：内裏。

むなしからじ：(大臣に)なれるだろう。 相人：人相を見て将来の運勢を占う人。

□(1) — 線①「鏡をとりて見給ひければ」とありますが、大相国はどんなことを確認しようと思ったのですか。十五字以内で書きなさい。

□(2) — 線②「思ひ給ひけり」とありますが、思った内容はどこから始まりますか。初めの五字を書き抜きなさい。

□(3) □にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 鏡にて近く見る イ 鏡にて遠く見る

ウ 井にて近く見る エ 井にて遠く見る

□(4) — 線③「はたしてはるかに程へてなり給ひにけり」とありますが、どうなったのですか。二十字以内で書きなさい。

|                                         |                                         |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">□(1)</p> | <p style="text-align: center;">□(2)</p> |
| <p style="text-align: center;">□(3)</p> | <p style="text-align: center;">□(4)</p> |

演習問題 B

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鳥羽僧正は近き世にはならびなき絵書なり。法勝寺の金堂の扉の絵書きた

る人なり。いつほどの事にか、供米の不法の事ありける時、絵にかかれる。

辻風の吹きたるに、米の俵をおほく吹き上げたるが、塵灰のごとくに空にあ

がるを、大童子・法師原走り散りて、とりとどめんとしたるを、さまざまお

もしろう筆をふるひてかかれたりけるを、誰がしたりけん、その絵を院御覧じ

て、御入興ありけり。その心を僧正に御尋ねありければ、「あまりに供米不法

に候ひて、実の物は入り候はで、糟糠のみ入りてかく候ふゆゑに、辻風に吹

き上げられ候ふを、さりとてはとて小法師原が取りとどめんとし候ふが、をか

しう候ふを書きて候」と申されければ、「比興の事なり」とて、それより供米

の沙汰きびしくなりて、不法の事なかりけり。 (橋成季「古今著聞集」より)

(注) 供米…お寺に納める米。 大童子…寺院で僧に仕える少年の中の年かさの者。

法師原…法師ども。 院…白河法皇を指すとされる。

御入興…ご興味深く思うこと。 糟糠…かすとぬか。

比興の事…不都合な事。 沙汰…取り締まり。

□(1) 〰〰〰線A・Bの言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きな

さい。 A [ ] B [ ]

□(2) 〰線①「近き世にはならびなき絵書なり」の現代語訳として最も適切

なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これまでの時代で、最も独創的な絵書きだった。

イ そのころでは、最も上手な絵書きだった。

ウ 最近では、少しは有名な絵書きだった。

エ この時代では、評価されない絵書きだった。

□(3) 〰線②「絵にかかれける」とありますが、鳥羽僧正はどのような絵を

かいたのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 中身がしまった米の俵が辻風にも吹き上げられない絵。

イ 法勝寺の扉が辻風に吹き上げられて空に浮かんでいる絵。

ウ 中身の軽い供米の俵が辻風に吹き上げられている絵。

エ 供米の俵が辻風に押されてどんどん転がっている絵。

□(4) 〰線③「比興の事なり」とありますが、院はどのようなことを述べた

のですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 供米を厳重に管理しなければならぬこと。

イ 供米を禁止する必要があるということ。

ウ 供米の納入は中止すべきだろうということ。

エ 供米に糟糠が混じるのもやむをえないということ。

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある殿上人、六月の二十日余りのころ、いと暗きに太后の宮に参りて、

馬道にたたずみけるに、上より、人の音のあまたして来りければ、さりげなく、

引き隠れてのぞきけるに、壺の遣水に、螢の多くすだくを見て、先なる女房、

「ゆゆしき螢かな。集めたらんやうにこそ見ゆれ。」とて過ぐるに、次なる人、

優なる声にて、「螢火乱れ飛びて。」と口ずさびけり。また次なる人、「夕殿に

螢とびて。」と打ちながむ。後なる人、「隠れぬものは夏虫の。」と、花やかに

ひとりごちたりけり。 (十訓抄より)

(注) 殿上人…昇殿を許された貴族。 太后の宮…皇太后。

馬道…厚い板を渡して通行するところ。 壺…中庭。

遣水…清水を庭に引き入れて川のように流したもの。 すだく…集まる。

螢火乱れ、夕殿、隠れぬものは…それぞれ有名な和歌や漢詩の引用。

ひとりごちたりけり…ひとりごとを言ったのだ。

□(1) 〰線①「六月」の旧暦での読みをひらがなで書きなさい。

[ ]

□(2) 〰線②「人の音のあまたして来りければ」とありますが、どのような

[ ]

様子がわかりますか。「殿上人」という言葉を用いて三十字以内で書きなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

□(3) 線③「引き隠れてのぞきける」とありますが、この部分の主語を文中から書き抜きなさい。

[ ]

□(4) 線④「ゆゆしき蛩かな。集めたらんやうにこそ見ゆれ」とは、どう

いうことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア これだけの数の蛩を集めるのは大変だったろうということ。

イ 蛩がたくさんいるので、集めたかのように見えるということ。

ウ 蛩は好きではないので、早くこの場を通り過ぎたいということ。

エ 誰が何のためにこれだけの蛩を集めたのだろうかということ。

[ ]

□(5) 次の意味の言葉が発したのはだれですか。文章中から書き抜きなさい。

・人目を避けようとしても表に出てしまう思いというものがある。

[ ]

□(3) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

\*亭子の帝みかどの御ともに、おほきおとど、大井に仕つかうまつりたまへるに、紅葉もみぢ、小倉の山にいろいろとおもしろかりけるを、かぎりなくめでたまひて、「行幸ゆきもあらぬに、いと興ある所になむありける。かならず奏まをしてせさせたまつらむ。」などと申したまひてついでに、

② 小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ

となむありける。かくてかへりたまうて奏まをしたまひければ、「いと興あることなり。」とてなむ、大井の行幸といふことはじめたまひける。(「大和物語」より)

(注) 亭子の帝…宇多法皇のこと。醍醐天皇の父親。

仕つかうまつりたまへる…おいでになったとき。 行幸…帝のお出かけ。奏まをして…(帝に) 申し上げて。

□(1) 線①「かぎりなくめでたまひて」とありますが、大臣はどのような様子でしたか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 大井を気に入っている帝の心情を理解した。

イ 大井に行幸をしない帝の心情を推測した。

ウ 大井の小倉の山のすばらしさに感嘆した。

エ 大井の小倉の山への行幸の多さを納得した。

□(2) 線②「小倉山の峰のもみぢ葉」とありますが、もみぢ葉にどのようなことを訴えているのですか。「行幸」という言葉を用いて四十字以内で書きなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

□(3) この文章に「係り結び」は何か所で使われていますか。漢数字で答えなさい。

[ ] 箇所

□(4) この文章の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 帝の行幸の場所を、大臣と帝が相談し、以前に大井で遊んだことのある大臣の助言で、大井への帝の行幸が実現した。

イ 帝が大井への行幸を熱望するので、大臣が事前に大井を調査して、帝の行幸にふさわしい場所だと確認し、帝の行幸が実現した。

ウ 大臣は大井に帝の行幸を実現させたいと思い、帝に申し上げたら、帝も興味をお示しにいられたので、大井への行幸が実現した。

エ 大井の小倉の山で暮らす人々が、帝の行幸を実現させたいと思い、大臣にその思いを伝えて、帝にも伝わり、ようやく行幸が実現した。